

私鉄車両めぐり 第8冊

鉄道ピクトリアル 1967年7月号・臨時増刊 通巻第199号

表紙 吹雪と闘うモハ7……………鈴木 洋

グラフ

大分交通耶馬溪線D32……………	3
寿都鉄道……………	4
南部鉄道……………	6
伊豆急行……………	8
南部縦貫鉄道……………	10
庄内交通鉄道線……………	95
北恵那鉄道……………	96
倉敷市営鉄道……………	98
大分交通耶馬溪線……………	100
私鉄車両めぐり<第8分冊>掲載私鉄分布図	

記事

①寿都鉄道……………	小熊 米雄・星 良助…11
②南部縦貫鉄道……………	宮沢 元和…20
③南部鉄道……………	白土 貞夫…27
私鉄車両めぐり雑見……………	谷口 良忠…36
④庄内交通鉄道線……………	金沢 二郎…37
庄内交通ノート……………	青木 栄一…43
⑤伊豆急行……………	久原 秀雄…44
⑥北恵那鉄道……………	白井 良和…53
福沢桃介と電気鉄道事業……………	和久田 康雄…61
⑦倉敷市営鉄道……………	河上 文久・和久田 康雄…62
⑧大分交通耶馬溪線……………	谷口 良忠…72
私鉄の経営主体とその名称……………	和久田 康雄…90

「私鉄車両めぐり」<第8分冊>をおくる

今回の対象の選定にあたっては、今までとりあげられなかった私鉄のうち、分冊に収容可能な中以下の規模のものをできる限り拾うように努めた。そのこと自体は従来の別冊の場合と変りないが、私鉄車両めぐりも回を重ねた結果、残る私鉄の数はかなりしぼられ、その中から種々の事情で今回は間に合わないものを除いたのがこれである。前回の本欄で「残る十数社の知られざる私鉄を一気に終結に持ちこむこともできるのではないか」と記したのはいささか楽観に過ぎたとおわびしなければならない。私鉄車両めぐりの内容は回を追うごとにくわしくなっており、今回は南部縦貫鉄道・伊豆急行という歴史の短い私鉄を含んでいるにもかかわらず、前回同様の8私鉄で分冊がいっぱいになったことは、十数社を一気にという期待がとうてい無理であったことを示しているわけである。

もう一つお断りしておかなければならないのは、北恵那鉄道を第1分冊に続いて再登場させた点である。私鉄車両めぐりが沿革や過去の車両に相当の比重をおくようになった現状からすると、初期に現有車両の紹介だけで終わった私鉄は洗い直しが必要であり、とりわけ同社は、その後現有車両も一変しているの、ここにとりあげた次第である。

筆者は一部に分冊初登場の方もいるが、ほとんどがおなじみのベテランとなってしまった。前回の分冊巻末で青木栄一氏が指摘された執筆者固定の傾向は、一朝一夕に打破されるものではなく、むしろ今後は、こうした常連と新鋭との協同研究の推進が望まれる。

本分冊の編集に当たって既刊分冊と趣きを異にしている点は、沿革編の内容にいちじるしい精粗のちがいがあることであるが、これはその社が有する誕生の背景や社歴に相違があるため、元来「車両めぐり」の本筋を逸脱したきらいがないではないが、それだけ各社の社歴にバラエティに富んでいるものとしてご諒承ありたい。

内容検討と補筆には、和久田康雄・青木栄一両氏に、またグラフ編集割付には高松吉太郎氏に、とくにお世話になった。

〔表紙〕「吹雪と闘うモハ7」 鈴木 洋
庄内交通モハ7 湯野浜温泉(ゆのはまおんせん)駅
*67.1.3

トブコンウイックミラS 絞り8 タイム1/125 フィルタなし SS

〔3頁〕「大分交通耶馬溪線D32」 谷口 良忠
105レけん機D32号 耶馬溪線起点1.0km地点
*67.3.27

ミノルタSR7 オートロッコールF1.8 絞り8 タイム1/250 UV ネオパンSS